園長通信
（令和８年度１１月号）

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園
園長　岡部　祐輝

【それぞれの権利と自由をどう考えるか】

10月は幼稚園では年少の子どもたちの「運動会参観」、年長・年中の子どもたちの「運動会」があり、無事開催することができました。多くのご声援をいただきありがとうございました。

行事の主役は「子どもたち」です。そう考えたときに、一人一人が行事に対しての思いやモチベーション、興味関心は異なるということを、考慮せねばなりません。特に幼児期はその違いが大きい時期と言えます。

例を紹介すると、わたしも子どもの頃、走ることが決して速かったわけでもなかったため、徒競走やリレーに対して、正直モチベーションはそこまで高くありませんでした。一方で、走ることが大好き、一位になりたい当時の友人は、やる気満々でその時間を過ごしていたわけです。ここにすでにモチベーションのちがいが生じています。

しかし運動会では、往々にして「心をひとつにする」、「勝利を願い、力を合わせる」などのことに向かい、学校園は指導することが多く存在します。もちろんこれらは大切なことですし、行事を通して経験してほしいねらいとなることも多くあります。しかし、この意識が行き過ぎると**「モチベーションが何かの理由で高く持つことができないこと＝悪・悪いこと」**となってしまう雰囲気が生まれやすくなります。

現在国では、この通信でも繰り返し書かせていただいている、**「個別最適な学び」**を重視する動きがあり、学校園の教育・保育をデザインしようとしています。一人一人の思いや興味関心はどこにあるのか・・・。集団の中ですべての子どもたちの「個別最適」をとらえきることを、完全に行うことは困難を極めます。しかし、その意識を持って、子どもたちの活動や行動を見ていくということで、わたしたち保育者や教師の動きは違ってくると思います。

そして、それぞれが持つ**「権利と自由」**についても考える必要があります。運動会を例にしても、**「走りたい！勝ちたい！」**という子どもと、**「走りたくない！別に勝たなくてもいい！」**という子どもが同じチームにいた場合、どう考えることが大切なのか・・・。**「そういわんと、勝ちたいと思うようにしようよ」、「勝ちたいって言っている子がいるでしょ！一生懸命しないとダメ！」**というような、やりたくないという思いを持つことはいけないこと！という指導が、唯一の正しい方法なのでしょうか。

このようなことを園では保育者間で討議をしています。しかし前提として、**「それぞれがそれぞれに思うことをそのまま好きにやればいい」と考え、それらをそのまま放置・放任をするということをしているわけではありません。**

「どうしてやりたくないと思ったの？」、「何かほかにしたいことがあったからそう言っているの？」・・・　子どもたちが意思を表現する背景を聞き取り、感じた思いを受け止めて終わりではなく、そのうえで、提案・質問・ほかの子どもの気持ちを伝える・その子どもの思いや意見を確認するなどをし、**「保育者が切り返す言葉をかけていく」**ことを重視しています。なかなか一気に、一回で子どもの行動や言動、考えが変わることは少ないです。しかし、そういったかかわりの中で立ち止まる機会があることは、発達や育ちの中で重要なプロセスと考えています。

それぞれの権利と自由が、ぶつかり合うとき・・・。、集団の関係性の中で見たときにどうかという視点でも、園としてこれからも討議していきたいと思います。

【勝ち―負けの間にあるもの】

年長・年中の運動会の閉会のあいさつで、「勝ちー負けの間にあるもの」のお話を少しだけさせていただきました。

通信で少し詳しく書かせていただきます。

子ども、特に幼児の発達段階の中では、**「０か100」、「好きか嫌い」**など、両極の考えのいずれかになることがあります。つまり、**「中くらい」、「まぁまぁ」、「どちらでもない」**といういわゆる真ん中という理解は、一般的に両極の理解が進んだ後に徐々に認識が進んでいくといわれています。

そのような発達の過程を進んでいる子どもたちにとっては、運動会などで経験することは、「勝ちか負けか」という両極のいずれかでとらえてしまう場合があります。特にその勝負に夢中になっている場合、負けた時の喪失感は子どもの中ではとても大きいものです。

私たち大人としては、「負けても頑張ったことに意味があるんだよ」など過程に目を向けた言葉をかけることがあると思いますが、終わった後に悔しい気持ちが強い場合、この言葉はなかなか届きにくいことがあります。

しかしだからといって、その言葉が無駄になるわけではありません。大切なことは、**「子どもがつらい・悲しい・しんどいといった感情を伴う体験をした際に、見放さず自分の言葉を受け止めてくれる大人がいてくれた」**という経験です。これらは、自分のことを自分で大切にしようとする、**「セルフコンパッション」**という力や、困難をはねかえし、しなやかに対応できる**「レジリエンス」**という力などを育んでいくことになります。

運動会を通して、ポジティブな感情だけではなく、時にはネガティブな感情も経験しているかもしれません。その時に私たち大人が、「勝ち-負けの間にあるもの」をともに考えていきたいですね。



